

この評定は信用できるのか

1年前に絶対評価が導入された中学の通知表評定ですが、昨年度は中学校によりその基準がかなり違っている点を指摘しました。(内容は塾のホームページに載っています。)昨年度は隣の中学より「厳しい」評定を付けていた高森台中学が、今年は大幅に甘く付けてきました。

高森の中2・中3の塾生の多くは昨年度より成績が上がって喜んでいるでしょう。確かにあなた達はよくがんばったとは思いますが。しかし昨年度より学年順位があまり変わらないのに評定のみ上がっている人は、少し冷静になった方がよいと思います。

'03年度1学期通知表結果

9科目別平均	英語	数学	国語	社会	理科	5科目計	音楽	美術	保体	技家	9科目計
1	5.0	5.0	4.3	4.9	4.4	23.6	4.3	4.0	4.3	3.9	40.0
2	4.8	4.9	4.3	4.4	4.6	23.0	4.3	3.9	3.8	4.1	39.1
3	4.6	4.6	3.9	4.4	4.6	22.1	3.8	3.7	4.3	4.2	38.1

5科目別内申評定割合 (%)

	英語	数学	国語	社会	理科
5	79	85	30	58	52
4	21	15	61	33	42
3	0	0	9	9	6
2	0	0	0	0	0
1	0	0	0	0	0

9科目合計内申割合 (%)

	'03	'02	'01	'00
40~45	64	18	32	32
36~39	15	41	26	35
32~35	18	32	21	21
27~31	3	9	13	12
9~26	0	0	8	0

過去4年間の9科目合計内申割合の表を見ていただければ、昨年度と今年度の異常さが見てとれるのではないのでしょうか。もちろん過去4年間のうちに塾生は入れ替わりがありますから直接の比較はできませんが、今年が例年と比べて特に優秀であるとは思いません。これはやはり評価が甘くなっているのです。

こうなってしまうと、中学の先生方も厳しい評価(それがどれほど「適正な」ものであろうとも)を付けにくくなるのではないかと心配です。『悪貨が良貨を駆逐する』のたとえの通りに、生徒に良い成績をばらまく先生ばかりになりはしないのでしょうか。

保護者の方は、「いい成績をもらって何が悪いのだ」とおっしゃるかもしれませんが、今年からこの評定で高校入試を行なうことになるのです。本人の実力を伴わない内申点は、高校の選択を誤らせることとなります。当日の試験で不合格になるのも不幸ですが、合格してしまっただけから授業についていけないことを思い知るの、もっと不幸です。今年の入試では上位校を中心として不合格になる受験生が大量にでる可能性があります。

結局不幸になるのは生徒自身なのです。